

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 20 日現在

機関番号：13401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2013

課題番号：25884030

研究課題名(和文) 北陸・畿内地域における古代の出土織物と紡織技術の考古学的研究

研究課題名(英文) Archaeological Studies of Textiles and Weaving Technologies in Ancient Hokuriku and Kinai area

研究代表者

東村 純子 (JUNKO, HIGASHIMURA)

福井大学・教育地域科学部・講師

研究者番号：10465601

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 800,000円、(間接経費) 240,000円

研究成果の概要(和文)：北陸地域とその周辺部を中心に古墳時代から古代を中心とする出土織物・紡織具を集成し、一部について調査を行った。木製紡織具に関して、古墳時代前期～中期の福井市高柳遺跡出土品や、福井県勝山市志田神田遺跡出土の輪状式原始機の布送具などが注目できるとともに、新たに福井県内の遺跡出土の紡錘車の集成を進めた。

出土織物に関して、過去に材質同定が行われ、麻と絹が判別できる資料を対象とし、組織と織り技法の特徴を調査した。なかでも、平織の麻と絹について、時代・地域別に組織の特徴が異なる傾向がみられることから、今後、それぞれの製織に使用する織機の種類との関連性について分析を進める必要がある。

研究成果の概要(英文)：The author researched textiles, spinning and weaving tools excavated from the ancient sites in the area of Hokuriku. It should be noted that weaving tools including a part of back-strap looms were excavated from the Takayanagi site and the Shidajinden site in Fukui prefecture. In addition, the author collected dates of spindle whorls from sites in Fukui prefecture.

Furthermore, the author investigated weaving techniques of textiles which were unearthed from archaeological sites and inspected their material, either hemp and ramie or silk. The plain weave constructions made with hemp, ramie and silk have different features each other. It shows that their features also vary with time and place. From now it needs to analysis their association with the kind of looms; back-strap looms, treadle looms and so on.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：考古学

キーワード：紡織 北陸 古墳時代 織物 古代

## 1. 研究開始当初の背景

古代日本では麻や絹などの織物が交換財として機能しており、紡織部門は主要な手工業の一つであった。しかし、紡織にかかわる遺物は残りにくく、文献史料も限られることから窯業など他の手工業に比べ、織物生産の具体相は明らかでない。

このような状況下、従来の古代日本の紡織研究は、(1)紡錘車や木製紡織具の形態や用途の研究、(2)主として律令時代を対象とした織物生産体制の研究、(3)織物の組織や技法の研究に大別でき、それぞれ(1)は考古学、(2)は文献史学、(3)は染織工芸や保存科学の分野を中心に進められてきた。筆者は、このなかでも日本各地で出土した各種紡織具・機織具について考古学による分析を行い、その用途や機能を認定し、弥生・古墳時代から律令時代にいたるまでの紡織技術の変化や生産体制について研究を進めてきた。

しかし、古代社会における織物と紡織技術、生産と流通の様相を明らかにするには、出土織物と紡織具、関連する文献史料を総合的に考察し、地域ごとの特色を解明する必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究では、新たに出土織物の調査を進め、その織り組織や技法と紡織具の組成を検証し、古墳時代から律令時代までの紡織技術の変化を明らかにする。さらに、関連する文献史料を整理し、律令時代における畿内と北陸地域の織物生産体制について遺跡・遺物に即して比較検討し、紡織部門からみた古代国家の形成と地域社会の編成について究明することを目的とする。

## 3. 研究の方法

調査対象は、北陸地域を主とし、比較として畿内とその周辺部を含めた古墳時代から律令時代までの出土織物と紡織具、及び

関連する文献史料とする。

### ・出土織物の組織、織り技法の解明

北陸地域とその周辺部の遺跡から出土した麻や絹の織物について青銅器・鉄器付着のものも含め、デジタルマイクロスコープを用いた観察・写真撮影等の記録を行う。北陸地域では織物の出土例が限られているため、畿内を含む他地域における織物の分析調査の結果とも照らし合わせ、素材別にみた織り技法の差異(麻と絹などの素材の違い、平織と綾織などの技法上の違い)に留意し、地域的・時期的な特徴について、考察する。

### ・出土紡織具の用途、使用法の解明

北陸地域とその周辺部の遺跡から出土した紡織具(現時点で用途不明の木製品も含む)を集成し、考古学の手法による形態分析を行う。現地で観察、実測、写真撮影による記録を行い、特に、用途不明の木製品で保存処理前のものは使用痕などを確認する。民族・民俗資料との比較や使用痕等の観察に基づき、その用途や使用法について実大模型などを通して検討する。

### ・律令時代の織物生産に関連する文献史料、研究史の整理

古代北陸においては「越前国郡稻帳」など、律令時代の織物生産に関連する文献史料を整理するとともに、古代手工業生産に関する研究史をまとめる。古代史の舞台としての北陸における織物生産の具体相について本研究成果の位置づけを行う。

## 4. 研究成果

北陸地域とその周辺部を中心に古墳時代から古代を中心とする出土織物・紡織具を集成し、一部について調査を行った。なかでも古墳時代前期～中期の福井市高柳遺跡出土の木製紡織具が注目できる。当遺跡では鉄滓や漆塗りの刀装具なども出土し、機織のみならず、鍛冶・木工・漆工など各種の手工業生産が集約的に行われており、重

要視できる。さらに、周辺の古墳副葬品における織物についても分析を進め、紡織具・織物の総合的検討を行う必要がある。

北陸地域では原始機部材として、石川県小松市八日市地方遺跡出土品が知られていたが、福井県勝山市志田神田遺跡でも輪状式原始機の布送具が出土しており、両端に施された文様構成など他地域との比較検討を行う余地がある。また、福井県内の遺跡出土の紡錘車の集成を新たに進めた結果、時代ごとの材質・形状の特徴は、近畿地域での傾向とほぼ同様であることが確認できた。

さらに、滋賀県東近江市蛭子田遺跡では、弥生後期～古墳時代の経送具などの原始機部材やその他の紡織具がまとまって出土している。経送具は、その形態と糸擦れ痕跡からそれと判断できるもので、今後、他遺跡出土部材を検討するための重要参考資料となる。経送具の分布状況から、山陰～北陸地域と琵琶湖沿岸部におけるスギ材利用と紡織具との関連性が示唆でき、今後の検討課題としたい。

出土織物に関して、組織の観察・記録を行った。特に、過去の調査研究で材質同定が行われ、麻と絹が判別できる資料を対象とし、それぞれの組織と織り技法の特徴を調査した。なかでも、平織の麻と絹について時代・地域別に組織の特徴が異なる傾向が指摘できる。

麻の場合、古墳時代後期に経地合主体から平地合主体へという変化がみられる。また、絹に関しては、同遺跡出土の同時代資料においても複数の異なる組織が認められる。この場合、使用する糸の製糸法の違い（繭から直接引く繰糸と真綿を紡ぎ出してつくる細糸との差）にもとづく可能性があることから、さらなる検証が必要である。

また、使用する織機の種類（原始機・地機・高機）との関連性についても民俗・民

族資料との比較から分析を進める必要がある。

律令時代の織物生産については、文献史料に基づく研究史の整理を行うとともに、古墳時代後期から古代の出土織物・紡織具との関連性について検討した。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計1件)

東村純子

「蛭子田遺跡出土の経送具と紡織技術」『蛭子田遺跡 東近江市木村町』340-345頁、2014年

〔学会発表〕(計1件)

東村純子

「古代日本の織物と紡織技術」

『光州新昌洞遺跡国際学術シンポジウム3 新昌洞織物文化の東アジアの観点』、2013年12月5日、大韓民国 国立光州博物館

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

(東村純子)

研究者番号：10465601

(2)研究分担者 ( )

研究者番号：

(3)連携研究者 ( )

研究者番号：